

## 読書は速い方が解りやすい

漢字をかなよりも先に学習した私の長女は、まだ小学校に入ったか入らないかという時期に読書のスピードが私のそれよりも速いということに気づきました。

試みに娘の読書する後から、私が読んでみますと、半分くらいしか読み終えないうちにページを繰ってしまいます。そこで私もスピードを上げるのですが、やはり読み終えないうちにページをめくられてしまいました。

それで、この速さで果たして理解できているのか、と思った私は、あとで内容についていろいろ質問してみました。すると、ちゃんと立派に答えるのです。そこで、私は、速く読み取ることと、理解することとは矛盾するものではない、と考えるようになりました。

実は、それ以前、“速読法”という書物を読み、速読の練習をしましたが、速読すればどうしても理解の面で不十分になる。それで速読と理解とは反比例するものだ、と私は思っていたのです。

しかし、娘のように、初めから速い読み方をしている者と、私のように、

あとから努力して速く読もうとしている者とでは違う、ということに、この時気が付いたのです。

最初が大事なのです。最初身につけた習慣というものは、なかなか改まるものでなく、無理に改めようとすると、その無理が別の面でマイナスとなって現われるものです。

だから、私たちのように、初めかなから学習したものは、どうしても読書が遅くなります。けれども、それを無理に改めない方がよい。もっとも、読書の種類によっては、速読法に頼るのもよいと思います。しかし、真の読書は、遅くても自分のペースで読まない、大事なことを読み落とす心配があります。そう思って、今では、甘んじて、ゆっくりと書物を読むことにしています。それだけに、これからの文字学習は、絶対に“かな文字から始めてはならない”とつくづく思うのです。